

1 全体計画

学校の教育目標

かんがえる子ども やさしい子ども たくましい子ども

令和年度学校経営方針

「元気いっぱい、笑顔で挑戦、子ども一人ひとりがよさを発揮できる学校」

心身ともに健康で知性に富み、自分も人も大切にできる豊かな人間性を持ち、時代と社会の変化に主体的に対応してたくましく生きる児童を、保護者・地域と連携・協働して育てる。

本校の捉える「確かな学力」

- ・主体的な学びの確立
- ・基礎・基本的な内容の確実な習得
- ・生涯にわたり学び続ける意欲と態度
- ・自ら学び、考え判断し、行動する態度と能力

令和元年度の指導の重点

<各教科>

- ・身に付けさせたい力の明確化
- ・質の高い言語活動の充実
- ・基礎的・基本的な内容の確実な定着
- ・情報活用能力の指導、読書指導の充実

<道徳科>

- ・自他の違いを理解し、お互いを大切にする心の育成
- ・自他の生命、自然を大切にする思いやりの心、伝統や文化を尊重し、感動する心の育成

<外国語活動>

- ・言語や文化についての体験的理解、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度
- ・外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむ、言葉の面白さや豊かさへの気付き
- ・絵本やICT機器の活用やALTの支援による、多様な見方・考え方

<総合的な学習の時間>

- ・課題解決の学習や探究活動の充実
- ・「探究的な見方・考え方」を働かせた、総合的・横断的な学習
- ・学習の基礎となる言葉の力の充実

<特別活動>

- ・人間関係形成
- ・社会参画
- ・自己実現

<生活指導>

- ・組織的な指導体制のもとでの指導方針の共通理解
- ・基本的な生活習慣の確立と、家庭との連携

<進路指導>

- ・キャリア教育の充実
- ・地域での職業体験やボランティア体験を通して、学ぶ学習の充実

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫

- ・各学年における学習規律の設定と指導の徹底
- ・国語・算数の基礎的・基本的な内容の定着
- ・思考力・判断力・表現力等の向上（言語活動・具体物の操作・実験の充実等）

教育課程編成上の工夫

- ・各教科の授業時数の十分な確保
- ・系統的な指導計画に基づく指導
- ・人権尊重教育推進校としての取組の充実

評価の工夫

- ・各学力調査に基づいた診断的評価や学習過程における形成的評価、総括的評価による評価を次の学習に反映
- ・パフォーマンス評価、自己評価等評価方法の多様化を推進

校内研究・研修の工夫

- ・校内研究を通じた授業改善
- ・人権尊重教育の視点での日常の授業の改善と研究授業の充実
- ・OJT研修の計画的な実施と、授業力の向上

家庭・地域との連携の工夫

- ・諸行事を通しての交流、連携の推進
- ・学校支援ボランティア制度を活用しての教育活動支援の拡充
- ・読み聞かせボランティアを活用しての読書活動の充実

学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用

- ・算数科における個別指導が必要な児童への指導
  - ・算数科の学習における算数少数指導教員との連携
  - ・放課後学習教室、長期休業中の学習教室（ぐんぐんタイム）での基礎基本の定着のための教材の作成や個別指導
- （1～3学年：年間15日程度 4学年：月1回 5学年：週1回 6学年：週2回 夏季休業中 全学年5日以上）

ALTの活用の工夫

- ・英語の発音や英語の学習内容についてのT1（担任）のサポート
- ・長期休業中の英語研修（教員へのレクチャー）
- ・外国語活動の学習で活用する資料の作成と作成に当たっての助言

## 2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科・計画的な板書やシートの準備を工夫する。そして、実験や観察のねらいを理解させ、仮説や予想をもって学習し、結論を自分でまとめられるようにする。

国語科の重点	話す・聞く力	書く力	読む力	言語についての知識・理解・技能	
・「書くこと」「話すこと・聞くこと」の指導内容を低・中・高学年ごとに明確にし、表現しようとする意欲を高める。 ・低・中学年において、音読や暗唱、対話、説明などの言語活動の充実を図り、漢字の読み書き、言葉のきまりなど、基礎的・基本的な内容を定着させる。 ・読む力を向上させるために目的に応じ、叙述に基づいて読んだり、教材文との関連を図った読書を行ったりする。	2年生	87.0	72.9	81.0	83.2
	3年生	67.2	62.5	78.1	89.1
	4年生	64.1	65.6	65.6	68.8
	5年生	78.3	65.0	71.7	76.7
	6年生	81.8	92.4	71.2	90.9

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の好きなこととその理由を二文で書くことができる。</li> <li>リズムよく音読をすることで言葉の美しさを体感している。</li> <li>助詞を文の中で正しく使う。</li> <li>大事なことを落とさず聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい文例を見に付けることを継続していく。</li> <li>家庭学習でも音読をし、読むことへの抵抗をなくすことが必要である。</li> <li>助詞の使い方の定着を図る。</li> <li>話す力、聞く力の向上を図る。</li> <li>読む力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視写や短文、日記などを書かせる中で繰り返し文についての指導をし、定着を図る。</li> <li>毎日音読の練習をさせ、文に触れるようにして、文字を読むことに慣れる環境を作る。</li> <li>正しい助詞の使い方を繰り返し指導する。</li> <li>二人組での対話や、学級全体の前でのスピーチの活動を意図的、計画に指導する。</li> <li>読書活動を充実させ、語彙力や想像力を育成する。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>全領域において区の目標値と同程度または上回る。</li> <li>書く力が区の目標値からやや落ちている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>順序を考えて正しく書く力を育成する。</li> <li>言語力を育成する。</li> <li>読む力の更なる向上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>順序を表す言葉を用いた具体例や使用例を示したモデル文を作成して指導する。</li> <li>作文や絵日記など文を書く機会を増やし、順序を意識して書かせる指導を行う。</li> <li>読書活動を充実させ、語彙力や想像力を育成する。</li> <li>読書タイムの活用や授業の中で言葉遊びなどの言語活動を充実させ、日常で使える言葉を増やしていく。</li> <li>授業の中で、音読をする機会を増やす。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>読む力・言語の領域において区の目標値を上回る。</li> <li>書く力、話す・聞く力が達成率70%を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の書き、その他の言語事項を定着させることが必要である。</li> <li>書く力、表現力を育成する。</li> <li>言葉の意味や使い方の定着が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入の工夫や、発問の工夫による楽しく学べる授業の創造をする。</li> <li>漢字テストを繰り返し行って、定着を図る。</li> <li>日常的に辞書を活用する。</li> <li>読書の推進を行い、基礎的な言語の定着を図る。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>区の学力調査において全ての観点で、到達目標70%を下回っている。</li> <li>日常的にも聞く力が弱い、学力調査の結果からも「話す・聞く」が5.9ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字や言葉の使い方の理解が不十分である。</li> <li>読解力を付けることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字テストを毎週決まった曜日に行い、そのための練習をする習慣を付ける。正しく書けない漢字は家庭学習や放課後などに、繰り返し練習する時間を設定する。</li> <li>国語辞典を常置し、分からない言葉をいつでも自分で調べることができる環境を整える。</li> <li>物語文や説明文は、文章に立ち戻りどの表現から答えを導いたのかを確認</li> </ul>

5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>書く項目以外は区の達成率70%を上回っている。</li> <li>作文、漢字を書く、言葉の学習と言った書く項目では区の達成率を10ポイント下回っている。</li> <li>話すこと・聞くことについては平均を上回るが、資料を基に話し合うことについて平均を下回る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えや思いをもち、表現する力を付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認め、内容を丁寧に読み取る学習を行う。</li> <li>一人一人が自分の考えをもつことができたことを机間指導で確認し、考えがもてない児童へは個別に指導をする。</li> <li>読書をする時間を朝の時間や早く学習が終わった時間に設定し、静かな環境を整えて落ち着いて本を読むことができるようにする。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>全領域において全国、区の目標値を上回る。</li> <li>文の構成や、説明文の内容を読み取ることについては目標値を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読む力の向上を図る。</li> <li>資料を基に話し合う活動を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>辞書の活用、読書の推進を行い、基礎的な言語の定着を身に付けさせる。</li> <li>定期的に漢字テストを行い、定着を目指す。</li> <li>朝のスピーチや授業でのグループ活動など、話す、聞く時間の内容を充実する。</li> <li>日常的に進んで本を読ませ、内容を正しく読み取る力を身に付けさせる。</li> <li>読み取りの学習では、話し合いの場面を設定し、対話の中で読み取りを深めさせるようにする。</li> <li>作文や新聞など、文章を書く機会を増やし、目的に応じて文章で表現できるようにしていく。</li> </ul>

(2) 社会科

社会科の重点

・社会的な思考力を育成するために、資料の中から問題解決に必要な内容を見付け、読み取る力を付ける。

レポートにおいて、視点を明確にして、事象の差異点や共通点を捉えて記録、報告させる。

・地域の様子と自分の生活を関連付け、親しみをもって課題追究型の学習を身に付けさせることで、思考力・判断力・表現力等や、知識・理解の向上を図る。

・日本の産業と自分の生活とのつながりに気付かせ、人々の努力や工夫について考えさせる。

・先人の行いや歴史的事実から考える力を育成する。

	思考・判断・表現	技能	知識・理解
6年生	89.4	77.3	68.2

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図の見方や使い方について学習したが、まだ十分に使えるようになっていない。</li> <li>・分かったことや考えたことを多様な方法で表現することが不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図の使い方など更に理解と習熟が必要である。</li> <li>・社会で学ぶことと実生活を結び付けて考えることが課題である。</li> <li>・資料の効果的な活用やノート書き方の指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが住んでいる身近な地域の特色や土地利用の様子などを絵地図にまとめるなど、地図の活用を進める。</li> <li>・学習や見学して分かったことを新聞やポスターにまとめさせる。</li> <li>・気付いたことや分かったことを発表したり、話し合いの機会を設定したりして、情報を共有できるようにする。</li> <li>・ノートの活用の指導を徹底する。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を活用したり、資料を読み取ったりする力が十分ではない。</li> <li>・調べたことに基づいて考えたり表現したりすることが苦手な児童が8割ほどいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、資料を読み取り、資料を選ぶ力を養う必要がある。</li> <li>・調べたことに基づいて考えたことを整理し、文章や図などで表現できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図の読み方、グラフの見方等、資料を読み取るための方法を教える時間を確保する。</li> <li>・考察の仕方を提示し、まとめたことを整理したり、文章や図などで表現させたりする。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料活用、資料を読み取る力が十分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を選ぶ明確な視点を育成し、問題解決のための効果的な資料活用の力を養う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を読み取る機会や、資料を読み取る活動を増やし、グループで意見交換する機会をもたせる。</li> <li>・表やグラフなどの資料の読み取りや、活用を中心とした授業を設ける。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全領域において全国、区の目標値を上回る。</li> <li>・世界の中の国土や工業生産の知識・理解に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の変容や特色を捉えるために比較、関連、統合という方法があることを理解し、日本の発展の過程、国際化の進展について理解するとともに、現代社会の特色に気付き、その知識を身に付けていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働的に学ぶ活動を増やし、グループで意見を練り上げる機会をもたせる。</li> <li>・ICTを導入し、写真資料や表やグラフなどの資料の読み取りや活用を中心とした授業を設ける。</li> </ul>

(3) 算数科

算数科の重点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決の過程を重視した授業を展開し、算数的活動の改善・充実を図ることを通して、数学的な考え方を身に付ける。</li> <li>・既習内容や考え方の活用力を高めていくとともに、学び合いを工夫し、主体的に学ぶ力を身に付ける。</li> </ul>		数学的な 考え方	技能	知識・理解
	2年生	78.8	92.1	89.6
	3年生	71.9	79.7	81.3
	4年生	70.7	78.1	81.3
	5年生	78.3	88.3	75.0
	6年生	84.8	90.9	93.9

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な数の概念や構成が理解できるようになった。</li> <li>・加法、減法の意味を理解している。</li> <li>・文章問題において、まだ、正しく問題場面を捉えられない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年間の基本となる小学校スタート段階の基礎的事項の確実な習得を図る。</li> <li>・思考力、表現力を育成する。</li> <li>・ノート指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物、半具体物等の操作で繰り返し学習させ、計算カードやドリルの学習で計算力の定着を図る。</li> <li>・ノート指導において、図や言葉でかき表し、伝え合うことで思考力や表現力を高める。</li> <li>・「ぐんぐんタイム」で補習する。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全観点において全国、区の目標値を上回る。</li> <li>・文章題、思考力、数学的な考え方の領域がやや弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的事項の確実に習得する。(形、時計、長さ、120までの数)。</li> <li>・個に応じた支援を続ける必要がある。</li> <li>・思考力の育成が必要である。</li> <li>・ノート指導を充実させることで、自分の考えをまとめられるようにする。</li> <li>・家庭学習の充実するよう学校から家庭への働き掛けの工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント、計算カードを利用して、基礎的な内容の反復練習を継続して行う。</li> <li>・「ぐんぐんタイム」で補習を行う。</li> <li>・「東京ベーシック・ドリル」の活用をする。</li> <li>・ノート指導において、考え方を表現する方法を指導する。また、伝え合う活動を取り入れることで思考力や表現力を高める。</li> <li>・家庭と連携し基礎・基本の定着を図る。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心・意欲・態度については区の平均とほぼ同じである。</li> <li>・減法の文章問題を、図を使って解くことを問う問題の正答率が区の目標値より9ポイント下回る。</li> <li>・ものさしに示された長さを読み取ることを問う問題の正答率が区の目標値より8ポイント下回る。</li> <li>・数学的な考え方が区の平均とおおむね同じである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題へ主体的に取り組み、自立解決することができるようにする必要がある。</li> <li>・単位の関係を理解することが必要である。</li> <li>・個人差への対応する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な問題をドリル・補習・宿題等を通して確実に習得させる。</li> <li>・ICT機器や電子黒板を効果的に活用し、視覚的に理解しやすいようにする。</li> <li>・課題解決型の学習やペア学習、グループ学習、更に活用問題、学習の振り返りを取り入れて思考力を付ける。</li> <li>・個別に対応し、自立解決でスモールステップを取り入れる。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区の学力調査の結果から、どの観点も達成率を70%以上上回っている。</li> <li>・知識・理解は80%以上の児童が達成率70%を上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本の確実な定着を図る。</li> <li>・個に応じた指導の充実させることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習や放課後の補充教室(ぐんぐんタイム)などで、ドリルや「東京ベーシックドリル」を活用し、基礎・基本の内容を確実に習得させる。</li> <li>・ICT機器や電子黒板を効果的に活用し、視覚的に理解しやすいようにする。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学的な考え方、技能は差が大きい。2割程度の児童は自分で考える前に教員に頼って答えを教えてもらうことが多く、理解や習熟にも時間がかかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身で問題を理解し、解決する力を付けることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題に対し、解決する方法やその学び方を指導する。</li> <li>・自分が求めた答えを個別に採点するなどし、すぐに正解を確認できるようにして、自信がもてるようにする。</li> <li>・問題解決学習の「検討」の時間等から、友だちの考えを理解したり新しい考えを作り出したりして、友だちから学ぶことを大切に授業を行っていく。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正答率は、全ての項目で区の平均を上回る。</li> <li>・「知識・理解」の項目の正答率が低い。</li> <li>・面積の項目の正答率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「基礎・基本」の確実な定着を図る</li> <li>・個に応じた指導を充実する。</li> <li>・既習内容を活用した図形の学習を行うことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な問題をドリル・補習・宿題等を通して確実に習得させる。</li> <li>・ICT機器や電子黒板を効果的に活用し、視覚的に理解しやすいようにする。</li> <li>・「東京ベーシック・ドリル」の活用をする。</li> <li>・いろいろなパターンの文章問題に多く取り組ませ、考える力を高めていく。</li> <li>・「ぐんぐんタイム」で補習を行う。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全領域において全国、区の目標値を上回る。</li> <li>・単位数あたりの大きさ及び割合についての「知識・理解」は全国の平均を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立式の根拠を表現する力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決型の学習では、個で考える時間を十分にとったり、ペアやグループでの学習を取り入れたりするなど思考力を身に付けさせる。</li> <li>・ICT機器や電子黒板を効果的に活用し、単位数あたりの大きさや割合の学習について視覚的に理解しやすいようにする。</li> <li>・「ぐんぐんタイム」で補習を行う。</li> </ul>

(4) 理科

理科の重点 ・学習過程（予想、見通し→実験・観察 →次の課題を見付ける→結果→まとめて 表現する）を大切にす。 ・生き物に親しみをもって接する。 ・見たり、調べたりする見方・考え方を明確にし、観察・実験に取り組む。 ・観察や実験を通して、学習内容を理解する。 ・問題解決の過程を定着し、科学的な思考力を高める。		思考・表現	技能	知識・理解
	6年生	83.3	78.8	83.3

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験には、進んで取り組むことができるが、学習課題の設定、観察の仕方やまとめ方の工夫に関しては、個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理科学習への興味・関心を高める工夫をする。</li> <li>基礎事項の確実な定着を図る。</li> <li>学習課題を児童から引き出す教材の工夫をする。</li> <li>実験や観察の結果を分かりやすくまとめる力を付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験のねらいを焦点化し、仮説や予想をもって学習しながら理解につなげていき、結論を自分の言葉でまとめられるようにする。</li> <li>観察の視点をあらかじめ示すことで、何を観察するのか明確にして記録ができるようにする。</li> <li>比較の視点をもちやすいような、事象提示を工夫する。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験には意欲的である。</li> <li>観察記録、実験の結果から考察としてまとめる力に差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な内容の確実な定着を図る。</li> <li>実験や観察の結果を分かりやすくまとめる力を付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的な板書やワークシートの準備を工夫する。</li> <li>実験や観察のねらいを理解させ、仮説や予想をもって学習し、結論を自分でまとめられるようにする。</li> <li>友達のまとめ方を参考にできるよう、交流する時間を設定する。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフや文章を読み取る力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理科学習への興味・関心を高める必要がある。</li> <li>基礎的な内容の確実な定着を図る。</li> <li>実験や観察の結果を分かりやすくまとめる力を付ける。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>グラフを読み取る力を付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的な板書やシートを準備を工夫する。そして、実験や観察のねらいを理解させ、仮説や予想をもって学習し、結論を自分でまとめられるようにする。</li> <li>予想・計画・実験・まとめの流れを様々な場面において繰り返し、定着を図る。</li> <li>これまでの単元との関わりについて考えさせるようにする。</li> <li>実験の結果をグラフにまとめたり、そのグラフをグループで話し合ったりして、グラフを読み取る力を高める。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>全領域において全国、区の目標値を上回る。</li> <li>「流れる水のはたらき」においては、知識・理解の不十分が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理科学習への興味・関心を更に高める必要がある。</li> <li>実験方法を考えたり、実験結果を考察したりして知識の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的な板書や学習シートの準備を工夫する。そして、実験や観察のねらいを理解させ、仮説や予想を立てて学習し、考察を自分でまとめられるようにする。</li> <li>これまでの単元との関わりについて考えさせるようにする。</li> </ul>

(5) 生活科

生活科の重点

- ・体験的な学習を通して、自分と身近な人々、及び地域に目を向けさせ、興味・関心をもたせる。
- ・植物や動物を育てたり、関わったりする経験を通して、自分と自然との関わりに興味や関心をもたせる。
- ・学習して気付いたことや楽しかったこと等を言葉、絵、動作、劇化などの方法により表現し、考えることができるようにする。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に見つけたことや気付いたことを文で書くことができている。</li> <li>・関心をもったことに進んで取り組んでいる。</li> <li>・文で表現することが難しい児童がいる。また、視点を広げた観察の仕方が定着していない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味、関心を広げて、友達と協力したり、力を合わせてやり遂げたりすることの楽しさや良さを知る。</li> <li>・学習したことを表現するときの表現方法を身に付ける必要がある。</li> <li>・さまざまな感覚を使った観察方法と表現方法を身に付ける。</li> <li>・地域を活用した単元の構成をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面に応じた学習形態を工夫し、互いの考えを伝えあう機会を多く設ける。</li> <li>・学習カード等を工夫して、掲示したり発表したりすることで意欲を高め自分の気付きだけでなく友だちの気付きも共有できるようにする。</li> <li>・観察の視点を具体的に提示することで、観察の方法と表現方法の充実を図る。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科と合科的に扱った単元があり、様々な観点で観察をすることができる児童が増えてきた。</li> <li>・小グループでの発表も協力して取り組めるようになってきた。</li> <li>・表現の仕方が広がっていない。気付きや工夫のある活動まで到達している児童が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な感覚を使った観察ができてきているが、表現を身に付けることが必要である。</li> <li>・学習のまとめを発表する活動を取り入れ、表現の仕方の工夫の幅を広げることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より出来ている児童を取り上げ、他の児童の意欲につなげる。良い気付きをしている児童の発言を広げて、気付いていないことや、表現できていなかったことにも目を向けさせる。</li> <li>・他の学年の学習のまとめを見せる機会を作ったり、様々な発表方法を紹介したりして、まとめの幅を広げさせる。</li> </ul>

(6) 音楽科

音楽科の重点

- ・音楽を味わって聴く態度を養う。
- ・自然で無理のない発声で歌えるようにする。
- ・器楽楽器の基本的な奏法を身に付けさせる。
- ・友だちの声や音に合わせ、ともに音楽をつくりあげる態度を養う。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習には意欲的だが、話を聞く、音を聴く態度や姿勢が定着していない。</li> <li>・元気いっぱいに歌えるが、気持ちが高揚すると、歌声から外れた奇声や怒鳴り声を出してしまう児童が見られる。</li> <li>・リズムののって手拍子や打楽器を打てない児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習規律の確立のための指導の充実を図る。</li> <li>・自然な発声の学習のための指導の充実を図る。</li> <li>・拍感の習得のための指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞く態度を育てるため、姿勢や聞く態度のよい児童を取り上げて褒めていく。</li> <li>・口の開け方や気持ちを込めて歌っている子、よい歌声の子を取り上げてよさを広める。</li> <li>・手拍子を入れたり、打楽器や鍵盤楽器でも曲に合わせて演奏したりできるように教材の工夫をすることで拍感を養う。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶に時間のかかることがあるが、学習には意欲的な児童が多い。</li> <li>・口の開け方や良い響きに気を付けて歌おうとしている児童が見られる。</li> <li>・器楽楽器には、意欲的に取り組んでいるが、鍵盤楽器の運指に戸惑う児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習規律を維持する指導の充実を図る。</li> <li>・自然発声的な歌声の指導の充実を図る。</li> <li>・鍵盤楽器の基本奏法の指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良い姿勢の児童を取り上げて褒めていく。</li> <li>・良い発声や気持ちを込めて歌っている児童を取り上げてよさを広める、発声に無理のない楽曲を選択し、響きある歌声を目指す。</li> <li>・鍵盤楽器は2～4人ずつ演奏して運指を確認しながら指導していく。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に意欲的だが、話の途中で発言したり、友達の演奏を聴かずに私語をしてしまう児童もみられる。</li> <li>・元気よく歌う児童や、口の開け方や姿勢に気を付けて、発声を意識して歌う児童が見られる。</li> <li>・リコーダーの学習には積極的だが、指の独立が難しく、運指にとまどう児童が見られる。</li> <li>・友達とリズムや音を合わせて演奏することが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習規律を確立する指導の充実を図る。</li> <li>・自然的な発声練習の指導の充実を図る。</li> <li>・リコーダーの基本奏法の指導の充実を図る。</li> <li>・グループ学習の指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞くときや演奏を聴くときには声掛けを行い、意識付けをしていく。</li> <li>・発声練習を取り入れていき、高音のある楽曲を教材として取り入れ、響きのある歌声を目指していく。</li> <li>・リコーダーの運指指導を繰り返すを行い、基本奏法を身に付けられるようにする。</li> <li>・友達同士の教え合いやグループ学習を取り入れ、友達の音を聴いたり合わせたりすることに慣れさせていく。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業には意欲的だが、気持ちが高揚すると私語が大きくなり、悪ふざけをしてしまう児童も見られる。</li> <li>・発声練習には真剣に取り組んでおり、響きのある歌声を目指している。</li> <li>・リコーダーの学習は、意欲的に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習規律を確立する指導の充実を図る。</li> <li>・継続した発声練習の指導の充実を図る。</li> <li>・リコーダー奏法の指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちを落ち着かせてから、話を聞く姿勢を維持させ、全体で静かにする場面をつくるようにする。</li> <li>・発声練習は継続して行き、より響きのある声を目指して助言していく。</li> <li>・興味をもてる楽曲を選択し、リコーダーに慣れ親しめるようにしていく。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ活動には意欲的だが、友達と音を合わせようとしていたり教え合ったりすることが難しい児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ学習の指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リコーダー練習や簡単な合奏など、グループ学習での友だち同士の学び合いの場を設定し、支援していく。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度は落ち着いており、自分たちで学習規律を守ろうとする姿勢がある。</li> <li>発声練習には真剣に取り組んでおり、響きのある歌声を目指している。</li> <li>器楽合奏には意欲的であるが、木琴や鉄琴の正しい奏法が身に付いていない児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習規律を維持する指導の充実を図る。</li> <li>継続した発声練習の指導の充実を図る。</li> <li>器楽楽器の基本奏法の指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高学年としての意識をもって取り組んでいるところを認め、そのよさを評価し、規律を維持できるようにする。</li> <li>合唱曲は、響きのある歌声を生かせる楽曲を選択し、意欲的に取り組めるようにする。</li> <li>器楽楽器の基本的な奏法が身に付くように、様々な楽器を体験させる。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度は落ち着いているが、グループ学習になると私語をするなど学習に集中できない児童が見られる。</li> <li>歌唱では、変声期を迎え発声に抵抗のある児童も見られる。</li> <li>器楽合奏には意欲的であるが、経験のある楽器や自信のある楽器を選択しがちである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習規律を維持する指導の充実を図る。</li> <li>継続した発声練習の指導の充実を図る。</li> <li>器楽合奏、楽器経験の指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ学習の目的を明確にし、児童が学習の流れを理解して活動できるようにする。</li> <li>変声期の児童には、個別に指導し、無理のない範囲で歌えるように支援する。</li> <li>様々な楽器の経験を増やすために、1つの楽曲で2パターンの合奏をしたりするなど、活動の工夫をする。</li> </ul>

(7) 図画工作科

図画工作科の重点

- ・児童の実態に、より合致した教材・題材を設定することを心掛ける。
- ・絵画表現に操作や工作的な要素を取り入れることで、表現に対する興味や関心を引き出す。  
また、継続的に意欲を喚起し、表現に発展的な広がりをもたせるために、見本を提示したり様々な技法や材料などを紹介したりすることで、表現方法を児童自ら選択する手掛かりとする。
- ・鑑賞については、鑑賞カードを活用したり、言葉で思いを伝え合ったりして、自分や友達の作品のよさを味わう態度を育てる。また、題材に合わせて国内外の美術作品の写真を掲示したり、作家の生涯を紹介したりするなどして、児童が様々な作品に親しむことができるようにする。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に関心・意欲は高く、おおむね楽しんで取り組んでいる。</li> <li>・指先を使った細かい作業が困難な児童が見られる。</li> <li>・作品鑑賞への意欲があり、感想などの発言に積極的である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語を理解する力及び情報処理能力に差がある。</li> <li>・指先を使った細かい作業を始め、表現における道具の使い方や表し方などの基本的な技能の定着が不十分な児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入に絵図を用いる、指示を細分化するなど、指導方法を工夫する。</li> <li>・繰り返し指導するとともに、見本を提示したり個別指導を取り入れることで定着をはかる。また、道具・材料の使い方や片付け方など学習の決まりをつくり、児童一人一人が集団の中で学習しやすいように指導していく。</li> <li>・児童が楽しんで取り組める題材を更に検討していく。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心・意欲は非常に高いが、一部、指示を落ち着いて聞くなどの学習規律が定着していない児童もいる。</li> <li>・児童によって技能の差が見られる。丁寧に描写する力や基本的な技法が定着していない様子が見られる。</li> <li>・友達の作品に感動し、よいところを認めることが多い。</li> <li>・自分の思いを話したり、友達の話を聞いたりすることがおおむねできるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習規律の定着が不十分であり、持続させるための手だてが必要である。</li> <li>・表現において、意欲は高いので技能を十分に身に付ける必要がある。</li> <li>・友達の作品に対する関心は高いので、伝える力を付けることが必要である。</li> <li>・友達との交流を生かして作品の表現に生かしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習規律は、分かりやすい言葉や絵図などを用いて丁寧に指導していくとともに、時間を区切るなどして集中を持続させていく。</li> <li>・児童の実態により合致した教材・題材を設定するとともに、参考資料などを充実させる。</li> <li>・学習の展開に発表を取り入れ、言語的な鑑賞活動を通して考えを深めさせるとともに、教材によっては鑑賞の後にも表現の時間を設ける。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心・意欲はおおむね高いが、指示を落ち着いて聞くなどの学習規律の定着が不十分な児童が見られる。</li> <li>・基本的な技能は身に付きつつあるが、片付けや効率のよい活動の見通しは不十分である。</li> <li>・指示を聞いて自分の活動に見通しをもつことが難しく、友達に手助けしてもらって進められる児童が複数いる。</li> <li>・自分の作品だけでなく、友達との作品の関わりを楽しんでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習規律の定着、学習への集中力が不十分である。</li> <li>・表現したいことを、よりよい方法で選択させるための手立てと仕上げの仕方の指導が不十分である。</li> <li>・全体指導で全児童が指示を理解できるようになることが課題である。</li> <li>・作品づくりに対する関心・意欲を更に高め、磨いていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きまりを守って取り組む大切さを指導する。協働のよさを理解させるために、頑張っている児童を取り上げたり、児童同士が互いの表現や活動を認め合う時間を設けたりする。</li> <li>・情報が混乱しないよう留意しつつ、見本を提示し、仕上げの方法を具体的に指導する。</li> <li>・到達すべき目あてや進度を分かりやすく提示し、見通しの意識付けをして取り組ませる。声掛けを行い、集中を持続させるように働き掛ける。</li> </ul>

4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心・意欲はおおむね高いが、日によって、協働ができず自分本位に学習を進めようとする児童が見られる。</li> <li>・基本的な技能は定着しつつあり、独自の表現を工夫するようになってきた。高度な表現を工夫する児童もあり、その姿に刺激を受ける様子も見られる。</li> <li>・友達の作品のよさを見つけ楽しんでいる。反面、自分の作品に自信をもてない児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習規律を守りつつ、自分の活動に集中して楽しめるようにする。</li> <li>・児童から出たよい発想を生かし、学級全体の表現力を磨く。</li> <li>・自他の作品を大切にすることを意識をもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中して学習に取り組むよう声掛けなどで指導する。ただし、よいところを褒め、進んで学習に取り組める環境を整える。</li> <li>・よい作品や発想を積極的に取り上げ、児童同士で学び合う機会を多く作る。</li> <li>・相互鑑賞の時間を設け、会話などを通して、児童が自分では気付かない自分の作品のよさを発見できるようにする。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで取り組む児童がほとんどである。</li> <li>・基本的な技能はほぼ定着しているが、技能を組み合わせることで作品に取り組むことが難しい児童も見られる。</li> <li>・一部の児童は、活動の見通しをもてておらず、決められた時間内に終わらせることができない。</li> <li>・友達の作品を楽しむことができる。作品のよさを具体的に考えられない児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材への関心が高いので、題材の意図を理解視点をいけるようにすることが必要である。</li> <li>・技能を駆使し、独自の表現・発想を深める時間が不足している。</li> <li>・見通しが不十分で、制作における試行錯誤以外の無駄な時間を省く必要がある。</li> <li>・造形の美しさに対する認識が深まっておらず、鑑賞の視点を明確にもたせることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材を進めるに当たり、参考作品を見せるなどして制作のイメージをもたせる。</li> <li>・繰り返し取り組ませて技能に慣れさせるとともに、児童同士でコツやアイデアなど学び合うように声掛けなどを行う。</li> <li>・授業時間の度に、到達すべき目安や進度を提示し、意識付けをする。</li> <li>・美術作品の鑑賞に取り組み、造形の美しさに対する認識を深め、審美眼を磨かせる。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『関心・意欲』おおむね高く、造形表現に対する好奇心も高いが制作に集中する授業規律が身に付いていない。</li> <li>・『技能』基本的な技能は定着しつつあるが、自力では覚束ず、発展的な表現や独自の構想を練るところまでには到達していない児童がいる。</li> <li>・『鑑賞』自他の作品を楽しむ姿勢が身に付いており、自分の感じ方を書こうとしているが、創意工夫に生かすことができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の制作手順など活動の見通しをもてていない児童にも授業に集中させることが課題である。</li> <li>・自分なりの表現への意欲を高め、表現を深め、発想を広げる時間を確保し、参考作品や資料、発展的な技法などを提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵図や写真を活用した板書を工夫するとともに、集中して個別に学習に取り組める環境を整える。</li> <li>・友だちとの話合いやアイデアスケッチなど、豊かな表現を工夫させる学習活動を取り入れる。自分なりの表現を生み出すことや卒業学年として作品を表現豊かに仕上げて展示することに自分で自分の作品の価値を見出せるように、声掛けなどを通して意欲付けをしていく。</li> <li>・児童が意欲的に取り組める教材を検討する。</li> </ul>

(8) 家庭科

家庭科の重点

- ・家庭生活への関心を高め、日常生活に必要な知識と技能を身に付けさせる。
- ・衣食住に関する基礎的な知識と技能の習得を行う。
- ・問題解決的な授業や一人ひとりが興味・関心をもっている学習課題の設定を行う。
- ・家庭生活を改めて見つめ直し、家庭生活をよりよくしようとする態度を養う。
- ・生活に活用できる実践や体験を学習過程に取り入れた授業づくりに取り組む。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で学んだことを家庭で実践しようとする児童が多い。</li> <li>・調理は、実際の体験も多いが、裁縫はアイロンかけ、針を使うことなどの経験が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決的な学習活動の定着を図る。</li> <li>・活動に対して見通しをもって取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の生活をベースに家庭での調べ学習などを行い、学習したことを実践するなど、家の人と一緒に関わってもらえる機会を増やす。</li> <li>・個別指導を重視し、個の実態を把握し、また、児童同士の教え合い、担任や家庭との協力体制をつくる。</li> <li>・見通しをもった体験的な活動を取り入れるようにする。</li> <li>・安全で衛生的に調理ができるように調理実習の基本的な手順をおさえる。</li> <li>・ミシンの準備の仕方やミシン針の扱いなどの安全面について丁寧に指導する。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活の在り方が多様化しているので、家庭での経験のばらつきが多い。</li> <li>・授業で学んだことを家庭で実践しようとする児童が多い。</li> <li>・食の学習は、実際の体験も多いが、衣の学習はアイロンかけ、針を使うことなどの経験が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決的な学習活動の定着を図る。</li> <li>・衣の学習を計画的に取り入れる必要がある。</li> <li>・活動に対して見通しをもって取り組めるようにする</li> <li>・学習の流れを分かりやすく提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の生活をベースに家庭での調べ学習などを行い、学習したことを実践するなど、家の人と一緒に関わってもらえる機会を増やす。</li> <li>・個別指導を重視し、個の実態を把握し、また、児童同士の教え合い、担任や家庭との協力体制を作る。</li> <li>・見通しをもった体験的な活動を取り入れようにする。</li> <li>・安全で衛生的に調理ができるように調理実習の基本的な手順をおさえる。</li> <li>・ミシンの準備の仕方やミシン針の扱いなどの安全面について丁寧に指導する。</li> </ul>

(9) 体育科

体育科の重点

- ・多様な運動の楽しみ方や関わり方を知り、自ら課題をもって多様な動きの獲得や運動能力の向上等に取り組み、バランスのとれた体力の育成を図る。
- ・豊かなスポーツライフにつながるように集团的活動や身体表現等を通じコミュニケーション能力を育むとともに、運動やゲームの練習や作戦を考え、その改善の方法などを児童が互いに話し合う言語活動を充実する。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男子は体力のバランスは全国平均よりやや高い。</li> <li>・男子は、全身持久力が高い。</li> <li>・女子は体力のバランスは全国平均よりやや低い。</li> <li>・男女とも筋力、筋パワーが低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力の個人差を少なくしていくことが課題である。</li> <li>・男女ともに高い項目と低い項目の差をなくし、全体的なバランスをよくすることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎体力を付けるための運動を継続的に取り入れる。</li> <li>・一人一人が自分のめあてを意識し、決まりを守って関わり合いを深め、互いに認め合いながら体力づくりに取り組む。</li> <li>・ケンケン跳びや連続してジャンプする運動や友達をおんぶして走る運動などを取り入れる。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女とも体力のバランスは全国平均とほぼ同じでバランスもよい。しかし筋力、筋パワーが都や全国平均よりも下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力の個人差を少なくすることが課題である。</li> <li>・男女ともに筋肉系の高めることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋力を高めるために、力の負荷の大きい運動や遊びを継続的に取り入れる。</li> <li>・一人ひとりが自分のめあてを意識し、決まりを守って関わり合いを深め、互いに認め合いながら体力づくりに取り組めるような環境を整備する。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女ともに体力のバランスは全国平均並み。柔軟性が高く、筋パワーが低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動経験値の差を埋めていくことが必要である。</li> <li>・筋力を付けることが必要である。</li> <li>・運動の特性に応じた技能を身に付けられていないので、動きの基本や力の使い方の工夫を再度教える必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎体力をつけるための運動を継続的に取り入れる。</li> <li>・一人ひとりが自分のめあてを意識し、日常的に継続的に体力づくりに取り組ませていく。</li> <li>・握力、俊敏性、投力などの筋力を高めるための、負荷の大きい運動をベースボール型ゲームの際などで意識的に取り入れていく。</li> <li>・ペアやトリオ、グループ活動を取り入れ、児童同士の見合いや教え合いの場を設定し、それぞれの運動の特性に応じた技能を身に付けられるように指導する。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女とも体力のバランスは全国平均とほぼ同じ。</li> <li>・敏捷性・筋パワー・筋力が低い。</li> <li>・チームでの運動では、協力することができない児童が数人いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女ともに筋パワー・筋力を付ける必要がある。</li> <li>・シャトルランでは、持久力というよりは、苦しくなっただけから更に頑張るという気持ちが弱いところが課題である。</li> <li>・どんな人とでも協力して活動できる力を付けることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくり運動の中で、体力を付ける運動を継続的に取り入れる。</li> <li>・諦めず頑張る姿を賞賛したり、お手本として紹介したりすることで、あと一步、頑張る気持ちを育てる。</li> <li>・きまりを守り、互いに認め合いながら運動できるよう、ルール工夫をし、チームでの励まし合う声掛けができるような指導する。</li> </ul>

5 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女とも体力のバランスは偏りがある。</li> <li>・男子は柔軟性は他に比べて高いが、持久力や筋力などは他に比べて低い。</li> <li>・女子は柔軟性と敏捷性は全国平均を上回る。持久力や筋力は下回る。</li> </ul>
6 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女とも全国平均と比較して優れている。筋力が課題である。体力のバランスは偏りがある。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女ともに、持久力・筋力を付ける必要がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に筋力を付けることが課題である。</li> </ul>



<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎体力をつけるための運動を日常的・継続的に取り入れる。</li> <li>・一人ひとりが自分のめあてを意識し、決まりを守ってかかわりあいをもよおすよう、互いに認め合いながら体力づくりに取り組ませる。</li> <li>・持久力を高めるために水泳や縄跳びなどの運動に取り組ませる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋力を付けるために、深くしゃがんだ姿勢からできるだけ高く連続してジャンプする運動や、ケンケン足跳びで20m位をできるだけ速くとぶ運動、相手をおんぶして走る運動などを組み合わせて取り組む。</li> </ul>